

# HEIMAT

## 14th REGULAR CONCERT

KYOTO UNIV.



'75.12.11

Kyoto Kaikan 2nd hall

母なる故郷よ

苔水のしたたりに

静まる山々

母なる故郷よ

美しい青空に

さわさわと

木々はさわめく

父よ母よ

故郷の地よ



## ごあいさつ

本日はお忙しい中をようこそ私達の演奏会においで下さいました。

私達ハイマート合唱団も創立以来15周年を迎え、歴史の重みといったようなものを感じる時代になって参りました。幾多の困難を乗り越えて生き残った伝統と、新しいものに取り組もうとする情熱に満ちた野心、現在のハイマートはこの2つの葛藤に生きているのだと思います。しかし、どちらの立場に立とうと「より深い音楽性を」というハイマートの精神には変わりありません。今宵もバッハ、ハイドン、邦人曲、男声合唱と多彩なステージで我々のめざすものを、できる限り皆様にお伝えしようと決意しております。

とはいえ、まだまだ未熟な私達のことです、皆様には、最後まで私達の演奏を聞いていただき、忌憚なき御指導、御批判を賜わりますよう、団員一同お願い申しあげる次第です。

なお最後になりましたが、本年も私達のために客演指揮して下さる伊吹新一先生、独唱を快く引き受けて下さった、正木真理、村上ひろ子、尾形光雄、灘井誠の諸先生方、三度私達の演奏に賛助して下さる京都市民管弦楽団の方々、そしてピアノ伴奏して下さる加藤ひろ子先生に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

1975. 12. 11.

マネージャー 有 本 和 歳

**PROGRAM** \_\_\_\_\_

# I 混声合唱とピアノ「コタンの歌」

チ      ポ      ●      ハウ  
船      漕      ぎ      歌

マ リ モ の 歌

熊の坐歌

アツシの歌

イ ユ タ      ●      ウ ポ ボ  
白 搗      き      歌

ムツクリの歌

パナンペ・ペナンペのリムセ (輪 舞)

カエルの子守歌

和田徹三作詩

湯 山 昭 作 曲

指揮 小笠原 隆 亮

ピアノ 加藤ひろ子

## II 男声合唱組曲「朔太郎の四つの詩」

五月の貴公子

孤 独

陽 春

## 緑色の笛

萩原朔太郎 作詩

清 水 脩 作 曲

指揮 土岐 一郎

# PROGRAM

—— 休 憩 ——

## Ⅲ モ テ ッ ト

J. S. バッハ 作 曲

”Komm, Jesu, komm“ (BWV229)

指 揮 喜 多 秀 行

《来たれ，イエスよ，来たれ》

## Ⅳ ミサ曲第8番 変ロ長調

ハ イ ド ン 作 曲

客演指揮 伊 吹 新 一

Sop. Solo 正 木 真 理

Mezzo Sop. Solo 荒 木 徳 子

Alt. Solo 村 上 ひろ子

Ten. Solo 尾 形 光 雄

Bar. Solo 元 木 信 弥

Bas. Solo 灘 井 誠

《ハ イ リ ッ ヒ》

京 都 市 民 管 弦 楽 団

## コ タ ンの 歌

この曲は、昭和45年度芸術祭参加作品として、NHK札幌放送局の企画により作られた委嘱作品である。

作者の弁によると、現在では次第にその数も減りつつある北海道の先住民族アイヌの人びとのあいだに伝わる物語伝説のうちの「パナンベ・ペナンベ物語」をもとに、アイヌの風俗、習慣や、現代から見た伝説にまつわる風物などを8篇の詩にまとめ、アイヌ民族音楽の旋律やリズムを素材としてそれを再創造したものがこの曲である。

「パナンベ・ペナンベ物語」とは、<sup>ペ</sup>パナンベがいた。パナンベがいた……。という書き出しで始まる形式を持つ物語のことで、その筋は、ある事件をパナンベがうまく利用して裕福になりペナンベがその真似をして失敗して死んでしまうという具合に決まっている。例えば釧路白糠の伝承の一つに次のようなものがある。<sup>ペ</sup>……ペナンベがいた。パナンベがいた。パナンベは酒を持って盆地に行き焚火をして死んだふりをして横たわり、傍では女房が「食べ物をつくる釜も織物の機械も作ってもらえない。」と泣いていた。そこへ狐が来て「暑さで死んだんだべが、寒さでやられたんだべが。それとも腹へって死んだんだべが。可哀想に、おばさん、俺達が助けてやるから泣きなさんな。だけど本当に死んだんだべが。」と言って狐が金棒を焼いてパナンベの尻に差すとパナンベはそれをうまく脇の下に隠した。狐はだまされて「本当に死んでいる。気の毒に。」そう言っ<sup>ペ</sup>て狐はそこにある酒を飲んで眠ってしまった。そこで起き上がったパナンベは狐を退治して、いいくらしをするようになった。そうしているうちにペナンベがやってきて「お前はあんなに貧乏だったのに最近どうしてそんなに裕福なのだ。」と聞くので事の次第を話してやるとペナンベは「何こいてる。そんなこと俺が先にやるべ<sup>ペ</sup>と思っていた

のを先にやりおって、憎い奴だ。」とプリプリ怒って帰ってしまった。そしてパナンベの真似をして盆地に行き焚火をして死んだふりをして女房を泣かせておいた。そこへ狐がやって来て「一度あったことはこりごりだ。みんな遠くに坐れ。」と言いながら狐の頭が女房に「暑さで死んだんだべが、寒さで死んだんだべが、本当に死んだのだば助けてやるよ。」と言うとペナンベがクスクスと笑ったので、狐は真赤に焼いた金棒を何の前ぶれもなくペナンベの尻に差したので、ペナンベはつまらない死に方をしてしまったと。

この曲では7曲目に<sup>ミ</sup>パナンベ・ペナンベのリムセ、という曲があるが、パナンベ・ペナンベ物語には歌謡とか舞踊は付随しておらず、純粹に文学的な物語である。

冒頭、波を連想させるピアノ伴奏と、舟こぎのかけ声で始まり子守歌で終わるこの組曲は、全8曲が急緩急緩の順序で並べられており、急楽章はかけ声が曲全体を通して歌われて、アイヌ民族のバイタリティーを表現しているのに対し、緩楽章は、女声合唱を中心にアイヌの人びとの生活や、彼等を取りまく自然を歌っている。

またこの組曲の大きな特徴の1つとしてピアノの占める比重がかなり重く、合唱の伴奏というより極端に言えば合唱を伴ったピアノ曲とも考えられる。

なおこの組曲の初演は、1970年11月3日合唱・札幌放送合唱団、ピアノ・高岡立子、指揮・池上恵三によって行なわれ、芸術祭大賞を獲得した。(R.O.)

注 パナンベ＝川下の者・ペナンベ＝川上の者

ピアノ伴奏 加 藤 ひろ子

京都芸大音楽学部ピアノ科卒。志水英子氏に師事。現在、大谷大学非常勤講師。府立医大オーケストラとの共演などの経歴を持つ。

**ご存知でしょうか？** 料理名に人名を冠した料理は大変多く、特に国王や武将、宰相、作家、俳優や歌手の名をつけたものがあります。英国のヴィクトリア女王(1819~1910)の料理は特に多く、ソースやスープ等数十種もあります。19世紀の文豪ユーゴーの名を冠したクリーム・ユーゴーのポタージュ、鶉の料理でジョルジュ・サンド、ロシアの名歌手チャリャピンのステーキ、ヴェルディの椿姫やブッチェーニのトスカ等歌劇の名を使うものもあります。イタリアのフローレンスで香辛料取引の富豪の娘で、フランス国王アンリ2世の皇后となったカトリーヌは多数の調理士を伴って婚嫁した事によって、フランス料理の近代的発達の源となったと云われ、そのイタリアのメディチス家の名を冠した料理名も数多くあります。

色々変るスープからロールパン・デザートに至る迄、失われつつある手造りの味をお楽しみ下さい。



- 円 居＝百万辺店＝レストラン＝百万辺下ル西入ル＝(771)7736
- まどい＝近 衛 店＝喫 茶＝東 山 近 衛 東入ル＝(771)0484
- 左 近＝三 条 店＝ス テ ー キ＝三 条 木 屋 町 角＝(241)4013

## モ テ ッ ト

現在バッハのモテットは自作が疑わしいものも含めて7曲しか残っていない。元来モテットは教会音楽であり、毎日曜日の早祷と晩祷に一曲ずつ演奏されていたものである。構成は8声からなる二重合唱で、歌詞はP・ティミッシがヨハネ伝第14章6に基づいて葬式コラールとして作詞したものの第1詩節と最終詩節が用いられている。まず $3\frac{1}{2}$ 拍子 *Lento* で *Komm*、が4回繰り返される。清く厳しく切実な叫びで、最も重要な部分でもあり、これが冒頭となって、今まさに死なんとする者の死との闘いが描かれてゆく。一方のコーラスに旋律を歌わせそれを他方のコーラスに和音で支えさせて変化の妙を見せたり、低声から高声へと両方から各パートが歌い出して徐々に高まる苦しみを如実に表現したりしている。*dimin.* で力つきたかと思うと急激に苦しみの極へと達して死と格闘している人の顔がちまちま輝き出し $4\frac{1}{4}$ 拍子、フーガ風の部分に入る。全体にやや沈んだ色調で、ある意味では変化の少ないこの曲の中でやや色調の変った部分となっている。後、 $6\frac{1}{8}$ 拍子で第1コーラスが歌い始めそれを第2コーラスがほぼ同じ形で繰り返す。特にこの部分でソプラノが歌う旋律は比類のない美しさであり、両コーラスが重なって歌い始めると曲は一段と盛り上がりを見せて第1詩節を終わる。最終詩節は *Aria* とされたコラール風の部分で四部合唱となって曲を閉じている。

なお楽譜によっては伴奏のつけられているものもあり現在も伴奏付きで演奏される場合もあるが、この伴奏は各声部をそのままユニゾンで重複させることがほとんどで合唱部分に従属するものと考えてさしつかえない。この意味で、ハイマート合唱団では無伴奏で演奏することが常となっている。

我々学生合唱団が宗教曲を演奏するにあたって常に問題

となるのが「果たして信仰心なしに歌いあげられるだろうか」であった。実際信仰者が自分自身ではどうしようもなくなった時の「叫び」とも取れるものがこの歌詞である。それを歌う時に一抹の白々しさを抱いてはしまわないか。

この問いについては私は曲そのものが解を与えてくれるように思う。この曲を実際に演奏してみると、加うるにそれがよいものであればあるほど信仰者バッハの想いが、高い精神性が曲の中から現われてくるのであって、言うなれば曲自体が宗教性を備えているのである。数百年の時代を越えて同様の精神を共有できることがこの曲を名曲たらしめるゆえんであり、この曲の本質を歌いあげる者にとって宗教性云々は自ら超越されよう。こよい皆様と曲の美しさ、高い精神性を分かち合えるならば望むところである。

(H. K.)

## ある団員より

毎年毎年飽きもせずにはバッハばかりよくやるなあ、と思いつつながら、僕自身バッハのモテットを歌うのは今年でもう4回目になってしまった。僕達は本当にバッハが好きなのか、それともついだからモテットを全部やってしまおうと思っているのか、どういう訳か毎年、バッハが選曲の候補に上って、それが通ってしまう。

どうも、そこらへんにころがっているベタベタとハモる曲では満足できないらしい。

ハイマートは、どうやら、かなり背伸びしてカッコイイ曲をやりたいがるような合唱団の一つであるようだ。バッハの声楽曲は、僕達の技術的限界をはるかに超えて非常に難しい。なのに、僕達は、毎年バッハのモテットに挑戦している。確かに挑戦という言葉がふさわしい。どっちにころぶかやってみないと判らない。

さて、そんなバッハのどこがよくて僕達は歌うのだろうか。——それは言わぬが花。

今夜、僕達の歌を聴いて判っていただけたらいいのだけれど……。

(S. M.)

L P 音楽喫茶 パンと洋菓子 中国料理

柳 月 堂

京・出町柳駅前 TEL (781) 5161 代表

## ハイリッヒ・ミサ

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン(1732~1809)は、管弦楽付きのミサ曲を14曲作曲したが、現存しているのは12曲である。そのうちの6番目のミサ曲作曲以後の14年間、彼は宗教音楽をほとんど書く機会に恵まれなかった。しかし、二度にわたる訪英後、1796年、エステルハーツィー公付きの宮廷楽長に返り咲いてからは、それまでの14年間に蓄積された創作欲を満足させるかのように、1802年にかけて、有名な6大ミサ曲を書き残した。これらは、毎年9月に行なわれるエステルハーツィー公爵夫人の命名祝日のミサのために書かれたと言われている。

今夜演奏されるミサ曲は、そのうちの2番目のもので、<sup>♯</sup>戦時のミサ(第7番)ハ長調、<sup>♯</sup>ネルソンミサ(第9番)二短調、を除くすべてのミサ曲と同じ変ロ長調で書かれている。

このミサ曲には、"Missa Sancti Bernardi von Offida(聖ベルナルド・フォン・オフィダのミサ曲)"という原題がつけられている。ベルナルド・フォン・オフィダは、17世紀におけるカプチン派の僧で、病苦と貧困に悩む人々への聖職者としての献身的な生涯は、教皇ピウス6世の手で、1795年に、聖(セント)称号を与えられることより、永遠に讃えられることとなった。ハイドンは、1797年9月12日、聖ベルナルドの命名祝日の翌日、このカプチン派の僧に対し、新しいミサ曲の演奏によって、敬意を表したものと思われる。

しかし、オーストリアでは、この曲は、むしろ<sup>♯</sup>ハイリッヒのミサ曲、としてよく知られている。それは、サンクトウス章の冒頭、合唱とオーケストラの中声部に、その当時広く親しまれていた<sup>♯</sup>ハイリッヒ讃歌、の旋律が用いられているからである。

このハイリッヒミサ曲は、ハイドンのミサ曲のうち最も

賞讃に値するものの一つであるが、劇的な盛り上がりには欠ける面がある。グロリアの部分にしても、むしろ素朴な印象すら与える。しかし、キリエをはじめとする多くの部分には、ハイドン特有の冴えが感じられ、実に爽々しい。また、クレドの中間部における、ひたむきな信仰の告白、アニュスディにおける切々とした訴えかけには、知らず知らずのうちに深い感動を呼び起こさせられるものがあり、ウィーンの教会におけるこのミサ曲の人気はなお根強いと言われる。しかしながら、我国では、ネルソンミサやハルモニーミサなどに比べても、あまり知られておらず、これまでほとんど演奏の機会に恵まれなかったのは残念なことである。(T.Y.)

## ある団員より

<sup>♯</sup>天国的な健康さ、「天地創造」「四季」等を通して、私がハイドンの宗教曲に抱く感想である。もちろん、それは、これらの曲の持つ、創造の讃美、生の歎びと神への感謝という性格にもよるだろう。しかし、私は、このような曲が代表作となっていてところに、ハイドンの宗教感情が表われているように感ずる。そして、その基本的性格は、このミサ曲においても変わらない。この曲は、大向うをうならせるような劇的な効果をねらったところもないし、かといって小じんまりとまとまっているわけでもない。あくまでも明るく、健康的に仕上げられている。しかも、それが決して表面だけの軽快さに流れていないところが実によい。ここには、本当に信じきった人だけがもてる、魂の自由という意味での明るさ、軽やかさがある。だから、この健康さは屈強な男のそれではなく、母親の愛情に見守られて、なんの屈託もなく遊びまわっている幼児の健康さである。しかし、ともあれ今日の演奏には、このような曲自体のおもしろさの他に、このような曲を、今日的な社会不安の代名詞である大学生が歌うという逆説的なおもしろさもあるかもしれない。私としては、この曲の持つ魅力が少しでも伝わるような声心状態で歌いたいと思うのだが……。(K.K.)



# 丸銀百貨店

銀閣寺電停前 TEL 761-0186

# 朔太郎の四つの詩

萩原朔太郎の「月に吠える」、「青猫」等のいくつかの詩集から4つを取り出し、清水脩氏によって作曲されたのが、この「朔太郎の四つの詩」である。これには春に関するものばかりが集められているのだが、そこに流れているのは、一般の人々が春によせる感情ではない。作者はその春の中において焦燥と孤独を感じているのである。むしろ、作者は春の楽しさや柔らかな暖かさを知っているが、その春の中に身をおきながら、そういった気持ちを味わいたい、その気楽さに浸りたいという願望しか持っていないのだ。寂しそうな1人の「おじょうさん」に対して慰めの言葉をかけ、笛をお吹きなさいと声をかける作者は、最後には「死んでしまいたいのです」と叫ばざるを得なかったのである。

そんな朔太郎の心情を清水脩氏の曲によってどこまで表現できるかはわからないが、ハイマート・メンネルの独自の解釈をもって演奏したいと思う。

曲の方を見ると、各パートがそれぞれ別に旋律を歌ったり、フーガの形式になったりして、合唱らしいところがあると思ったら急にユニゾンになったりもし、その上、半音ずつ動き、難しい和音が構成されていたかと思えば、急に主和音になったりして、意外におもしろい曲である。

**五月の貴公子** 若草のはえているその上を作者は歩きながら、全ての憂愁を払って春に浸りたいと願う。そしてそんな自分を五月の貴公子と見たてる。

**孤独** 田舎のほこりっぽい道端に立って、故郷に容れられざる作者はふるえる心の寂しさをかみしめる。

**陽春** 春のやってくる様子を戯化している。

**緑色の笛** 寂しい黄昏の野原の中で幻像を抱いているその中のお嬢さんに優しい言葉をかけながらも、作者はその中で彼女に、死んでしまいたい、と叫ぶ。(I.D.)

# ハイマート合唱団

## 「メンネル・コール」とは、……

ハイマート合唱団「メンネル・コール」とは、ごくあたり前に言うてしまうならばハイマート合唱団の男性部員からなる。男声合唱を自主的に(この言葉にはいささか問題もあるが)行っている団体……ということになる。

しかし「メンネル」という言葉を我々が耳にする時、当然の事ながら、これだけでは表現できない様々なニュアンスを帯びてくる。ある者にとっては指揮者のユニークな顔(失礼)が浮んでくるかもしれないし、またある者にとっては、トップテナーの苦しい悲鳴にも似た叫び(失礼)が浮んでくるかもしれない。

とにかく「メンネル」というのは良くいえば自発的に、悪い表現を使うならば「好きこのんで」やっている活動である。「好きこのんで」というのはクラブの性格に(特にそれが音楽の場合には)大きな影響を持ってくると思われる。そこには大学の音楽クラブに不可避な「甘え」も充分予想されるであろう。しかしこれが成功すれば、「甘え」を補って余りある成果が期待されるのではないか。そこには自由奔放な音楽性の発露が必ずやあるだろう。

さて「メンネル」の練習は火曜の昼30分と水曜の夕方2時間で、いささか混声の練習のあいた時間を縫っての感がある。こんなわけではなかなか多くの人が集まらなかったりする。実際、今年は「メンネル」の危機が叫ばれ、定演出場もあやぶまれるほどであった。

しかし、11月にはメンネル合宿を決行し、城崎出身、土岐君のヴァイタリティー溢れる指揮の下、女性から解放されて(見捨てられて?)なりふり構わず、今宵、難曲「朔太郎の四つの詩」に挑戦する。ハイマート「メンネル」の勇姿をとくにご覧あれ! (A.W.)

SNACK & COFFEE

MILLION

左京・百万辺・西入ル  
TEL 781-8910

コーヒーとカレーの店  
AM. 9:00~PM. 11:00

ど〜る

東山近衛電停西 200m上ル  
TEL 751-1110

事務・複写用品  
スチール家具

マスオ

市電農学部前  
TEL 761-3391(代)

客演指揮 **伊 吹 新 一**



昭和4年京都に生まれる。立命館大学法学部卒、京都市立音楽大学指揮科卒。斎藤秀雄氏に師事。現在、堀川高校音楽科教諭、及び京都芸大講師。また大谷楽苑合唱部、立命館大学交響

楽団、京都市民管弦楽団の常任指揮者、京都市交響楽団の客演指揮者として活躍。

先生に客演指揮をお願いして今年でちょうど十年目を迎えることになりました。未熟な私達がこのように盛大な演奏会を持てるのも、先生のお力によるところが大きいといえるでしょう。週一度、たった1時間の練習ですが、先生の暖い厳しい御指導の内に、私達は数多くの事を学び、そして先生の音楽へとひき込まれていくのです。その先生に感謝の念を込めて、今宵の最終ステージ、最高の演奏となるようがんばりたいと思います。(S.T.)

**正 木 真 理** (ソプラノ)

東京芸大音楽学部卒  
現在、堀川高校音楽科教諭

**村 上 ひ ろ 子** (ア ル ト)

武庫川女子大音楽学部卒  
現在、大阪芸大講師

**尾 形 光 雄** (テノール)

林達次氏に師事  
現在、大谷楽苑、樹声会会員

**灘 井 誠** (バ ス)

京都芸術大学音楽学部卒  
現在、京都芸大、大阪芸大、大谷大講師

## 京 都 市 民 管 弦 楽 団

一般市民によって構成されている管弦楽団で、団員は、サラリーマンや医者、学生などさまざまな仕事の持ち主ですが、音楽に対する情熱によって互いに結ばれ、一体となって練習を重ねています。1968年11月に、山田忠男氏を団長として結成され、現在は伊吹先生を常任指揮者として、京都市の援助のもとに、定期演奏会、土曜コンサート、オペラ出演等と、多彩で意欲的な活動を続けています。

洋 酒 喫 茶  
ビュッフェコーナー

# 凱 旋 門

京・河原町三条下ル二筋目東入ル  
TEL (221) 0 8 5 5 ・ 2 7 5 5

## 喜 多 秀 行

ハイマートに入団して初めて彼に会った時、彼はショパンのピアノ曲を聞くのが好きだと言っていた。そんな彼にふさわしく、どんな時でも怒ったのを見たことはないし、人を困らせるような意見を述べたこともない。ものごとの決着がまとまらない時に、彼の何げない意見で緊張がとけて、新しい局面をひらいていったこともある。

彼は昨年、サブマネージャー、定演委員長と、ハイマート中枢の役職を歴任し、今年は指揮者として、すでに、ロシア民謡をふってきた。彼の指揮は、団員が、彼の心と共通の心を持ち、曲に対する或る共通のイメージを有することを期待しているようである。けっして練習中にきつい言葉は出ない。しかし、われわれは、彼とともに曲の中へとけこんでゆくのである。今宵、彼はバッハのモテットをふる。この美しい叙情に溢れた、そして内部にきびしいフーガ構成をもった宗教曲が、彼の指揮でどのように会場に響き渡るか、とくとお聴きいただきたい。

(Y. K.)

## 小 笠 原 隆 亮

あれは春合宿の頃からだろうか。悪童、不肖の子等と呼ばれていた彼が、急に大人びて見えるようになった。彼を年令不詳にしているひげのせいだけではない。指揮棒を振る時の真剣な、情熱をひめたまなざし、不断の努力、それらが歌う団員の心を強くとらえる様になったからだろう。北国は十和田の産、冬には強いはずの彼にも修学院の風は冷たく、風邪に悩んだこの秋だが、持ち前の強い精神力と責任感で頑張ってくれた。去年はメンネルで「人間の歌」を振り、今年は手ごわい女声を加えて「コタンの歌」に挑戦する。独特の「小笠原指揮法」で団員を率いて、そのナイーブな感覚を表現する。そのうち「わたしも行きたいお嫁にね!」という女性が大勢現われることだろう。今夜は、精一杯歌って彼の努力に報いたい、彼の内面的成長がきつとおわかりいただけると期待している。(K. Y.)

## 土 岐 一 郎

いわゆる春秋五覇の一人、宋の襄公は、戦いに臨んで臣下の諫言を容れず、その敵陣の整うのを待って攻勢をかけたため、かえってその戦いに敗れてしまった。これを世に宋襄之仁と称し、無用の情をかけることの譬としている。ここに紹介する期待の新人指揮者土岐一郎君は自ら字して宋襄となのっているが、これはかの仁義に篤い諸侯の故事に因むのである。しかし、この世智辛い世の中で、無用の情の如きを標榜する彼の真意は奈辺に存するのであろうか。今宵の演奏が畢竟この謎を解く一つの鍵となるのである。現代の我等が襄公にとって、その戦場は音楽である。成程、彼がかの襄公と同じ敗戦の憂き日に遇わぬという保証などはない。しかしそれにもかかわらず我々は、勝利の確信らしきものを既に把みかけているのだ。音楽という戦いに勝ちを得るには、この土岐一郎宋襄が今日までその胸中に温め続けてきたあのやさしさがまず第一に必要とされるからである。

(T. K.)

皿うどん  
チャンポン専門店

本 場 の 味

まつお

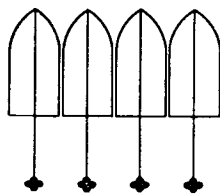
北 白 川 電 停 前  
TEL 771 - 6345

自家製麺うどん・生そば  
井 物 一 式

かめや

京・左京区北白川久保田町64  
TEL 781 - 5371

SNACK & COFFEE



マレッシュエ

左京区岡崎吉田神泉岡坂東  
TEL 771 - 2113

# 役 員 お よ び 団 員

|             |   |         |         |
|-------------|---|---------|---------|
| 顧           | 問 | 高 安 国 世 | 芦 津 丈 夫 |
| マ ネ ー ジ ャ ー |   | 有 本 和 歳 |         |
| サブマネージャー    |   | 若 尾 晃 弘 | 杉 村 領 一 |
| ヴォイストレーナー   |   | 正 木 真 理 | 尾 形 光 雄 |

## Sopran

|           |      |
|-----------|------|
| 西 村 和 子   | 文IV  |
| 宮 本 初 美   | 法IV  |
| 中 嶋 恵 美   | 薬III |
| 埜 村 圭 子   | 薬III |
| 山 田 郁 子   | 農III |
| 百 合 本 仁 子 | 文III |
| 江 藤 律 子   | 薬II  |
| 河 原 佳 子   | 法II  |
| ○杉 谷 佳 子  | 薬II  |
| □中 保 佳 子  | 理II  |
| 蓮 池 真 子   | 文II  |
| 福 浜 郁 子   | 文II  |
| 木 岡 真 由 美 | 教I   |
| 平 尾 和 恵   | 文I   |
| 山 川 農     | 教I   |

## Alt

|             |      |
|-------------|------|
| ( 鈴 木 美 智 子 | 薬IV  |
| 長 峰 恭 子     | 薬IV  |
| 林 泰 子       | 文IV  |
| 井 上 恵 子     | 農III |
| 北 内 陽 子     | 文III |
| 設 楽 幸 子     | 薬III |
| 西 村 玲 子     | 薬III |
| □一ノ井 啓 子    | 文II  |
| ○清 水 美 智 子  | 薬II  |
| 西ヶ谷 嘉 枝 子   | 薬II  |
| 荒 木 徳 子     | 農I   |
| 直 木 由 起 子   | 法I   |
| 山 田 朋 子     | 農I   |
| 山 田 道 子     | 教I   |

## Tenor

|               |    |
|---------------|----|
| 能 田 政 秀 農 修II |    |
| 京 島 英 徹 理 修I  |    |
| 小 林 俊 工 修I    |    |
| 藤 原 郁 工 修I    |    |
| 松 井 合 法IV     |    |
| 川 合 勝 理IV     |    |
| 百 瀬 洋 教IV     |    |
| 田 中 通 工IV     |    |
| 福 野 亮 工III    |    |
| 米 沢 彦 工III    |    |
| 有 本 和 信 農III  |    |
| 川 添 敏 法II     |    |
| 小 林 雅 文II     |    |
| ○近 藤 昌 工II    |    |
| 高 嶋 二 文II     |    |
| 西 尾 彦 工II     |    |
| 若 路 弘 法II     |    |
| 大 西 幸 文I      |    |
| 大 鈴 哉 法I      |    |
| 伏 亮 平 農I      |    |
| 山 見 夫 工I      |    |
|               | 理I |

## Bass

|                |
|----------------|
| 鈴 木 五 一 農 修II  |
| 加 藤 哲 弘 文IV    |
| 田 辺 利 行 經IV    |
| 元 信 弥 工IV      |
| 小 笠 原 隆 理III   |
| 喜 多 秀 工III     |
| 田 村 純 經III     |
| 森 横 大 起 助 農III |
| 石 山 耕 二 工II    |
| □木 下 一 文II     |
| ○土 岐 領 工II     |
| 村 瀬 和 工II      |
| 安 積 彦 工I       |
| 杉 村 一 工I       |
| 丹 羽 伸 二 經I     |

○パートリーダー

□パートマスター

旨かった  
安かった  
感じ良かった  
そんな店になりたい

百万辺勧銀西隣

カフェテリア  
めし・料理

た る

TEL751-1532



京・左京区田中関田町電停上ル

TEL 722-0949

AM. 7:30 ~ PM. 9:30

中国料理

李 白

左京区銀閣寺電停上ル西側  
TEL 721-2374

焼肉・中華

東 大 門

オールナイト営業

銀閣寺電停前 TEL 771-4610

喫茶・軽食

フ ロー ラ

左・吉田下大路町16  
TEL 751-9865

フランスパン  
てづくりの味

(有) 山田製パン所

サンドウィッチ・ホットドッグ

本店 左京区浄土寺下馬場町  
TEL 771-5743  
東店 左京区浄土寺下南田町  
TEL 761-3780

珈 琲 店

も と せ

左京・百万遍西北筋  
TEL 711-3427



イ タ リ ー 風 喫 茶  
喫 茶 ・ ピ ザ パ イ

アイゼツエ

銀閣寺電停上ル東側 722-0909

コンパに御利用下さい

す み れ 寿 司

一 皿 30 円 より

百 万 遍 西 北 角  
TEL 781-3486  
721-2049

MEMORIAL RECORD PLANNING



株式会社 京都サウンド・プロデュース 〒606 京都市左京区聖護院山王町14出雲会館内 TEL(075)751-0138

和洋定食の

# 花菱

東一条万里小路西入ル

宴会コンパ・ビヤコンパ承ります

# 百万石

2F PUB百万石

PM. 4:30 ~ AM. 1:00 TEL 721-2466

1F 中華料理と焼肉

AM. 11:00 ~ AM. 3:00 TEL 721-2659

スキヤキコンパ会合に  
御利用下さい  
鍋料理・寿司

# きよす

京・寺町今出川上ル  
TEL 231-5121・5122

お食事処

# 明実

京都市左京区田中門前町24  
TEL 781-8918

皆様方の

# 鈴蘭食堂

東一条電停西入ル南側

旨い! 安い! が樽の味

てっちり... (その他) 水だし料理  
御席・御予約承ります

# 樽

木屋町店: 木屋町三条下ル東 TEL (221-1461)  
4:00pm ~ 12:00pm  
ぎをん店: 花見小路四条上ル TEL (531-3323)  
4:00pm ~ 4:00am

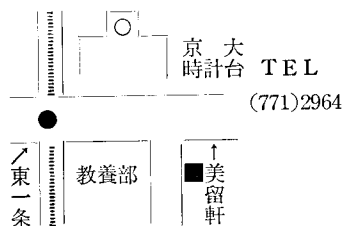
Georges5 左・北白川小倉町バス停前  
TEL 721-2583



京大と共に70年

理髪

# 美留軒



喫茶・軽食

# 玉蘭

農学部前 771-3361  
出町 231-7871

古書最高買入

# 竹岡書店

銀閣寺電停西入  
TEL 761-4554

喫 茶・お好み焼

ちろりん

銀閣寺電停東入ル  
TEL 751-1919

京都ハンデクラフトセンター

熊野神社東入ル  
TEL 761-5080

COFFEE

カレー軽食  
喫茶室

メイゾン民芸

京・北白川別当町バス停南西角  
TEL (781) 9354

洋 酒 専門店  
ワイン

liquor

foods

MONOBE

北白川電停東50米北側  
TEL 781-4810



シェル石油(株)

特約店

株式会社

西村石油

京都市左京区吉田泉殿町4番地

給油所・一般取扱所

771-0137  
電話 京都(075) 771-8435  
791-1354

味とムードが「ピツタリ」  
忘年コンパ・新年コンパ

若人の集いを楽しくする

レストラン スター チェーン

総本店 京・寺町錦上ル 221-3128(代)

京極支店 新京極四条上ル  
TEL 221-2555  
祇園支店 四条通縄手東入  
TEL 561-4101  
西陣支店 千本通一条上ル  
TEL 461-1903  
大宮支店 四条通大宮東入  
TEL 841-3405  
八瀬支店 八瀬遊園内  
TEL 781-9151

比叡山支店 比叡山頂上  
TEL 701-4819  
比叡山ヒュッテ 比叡山人工スキー場  
TEL 781-9938  
ル・オカザキ 東山二条東入  
TEL 761-1326(代)  
姉妹店ロマーナ桂店 9号線千代原口西入  
平安ボウル西側  
TEL 391-4992

Heimat